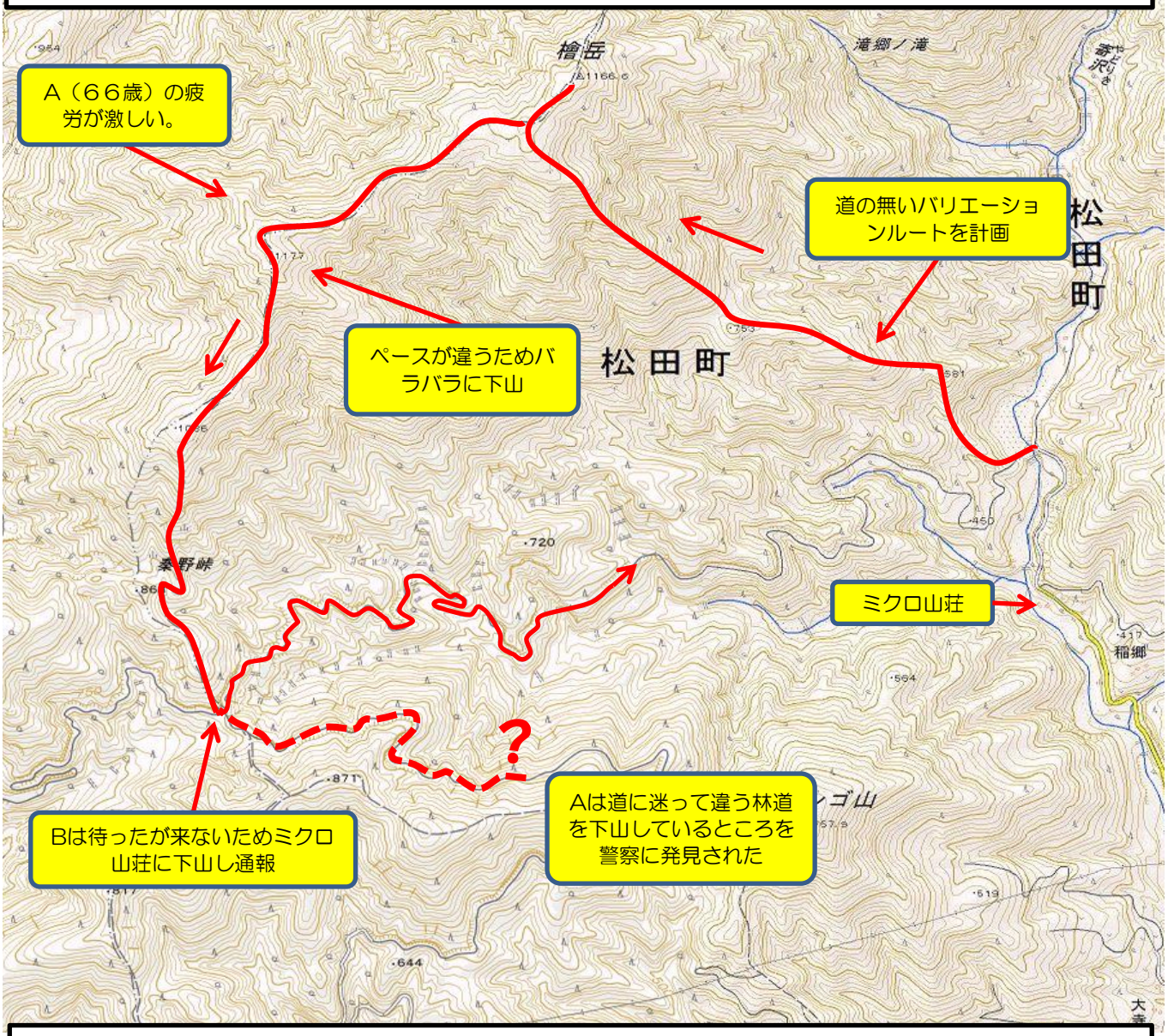
檜岳遭難（2011年5月）

男性A・Bは道の無いバリエーションルートで檜岳登山を計画。疲労で歩くペースが違い、パーティーがバラバラになった。途中で仲間を待っていたが遭難したと思い警察に通報した。



解説

パーティーがバラバラになって道に迷うケースは比較的よく聞く話しである。しかし、パーティーがバラバラになることは登山の基本から逸脱しているといえる。また、疲労困憊したAをかばって一緒に下ることが仲間のとる行動であるが、それをバラバラに行動するのはBはパーティー行動の基本が理解できていなかったと筆者の方も書かれている。同感である。

登山道を使わないバリエーションルートは体力、読図技術を持ってから計画してほしい。パーティーの在り方についてもう一度基本に立ち返ってもらいたいため、この遭難事例を掲載されていただいた。